

「軍都 月寒の歴史を歩く」

～高校地理Aにおける地域巡検の実践例～

鈴木 良伸

(北海道札幌月寒高等学校)

はじめに

私が、本校に赴任した当時（今から7年前）、学校の近くに「防空指揮所」と呼ばれる第二次世界大戦当時に作戦司令室として使われていた建物が残っていた。この建物は1m以上の分厚い鉄筋コンクリート製の重厚な造りで、地上2階地下3階、東北・北海道・千島列島・樺太の戦況を把握し指令を出す「北の大本営」として、軍事防衛上、重要な役割を果たしてきた。また、本校も旧日本陸軍「歩兵第25連隊」が駐屯していた跡地に建てられた学校で、近くにある「月寒中央通商店街」は、この連隊と取引するために自然発生的に生まれたものである。

高校の地理では、身近な地域が国際化の進展にどう関わっているかということを経験学習を通じて考察させることとなっているが、せっかくの機会なので、この特色ある地域を身近な地域の学習で取り上げることとし、新旧の地図を比較しながら野外巡検を行うこととなった。最近では交通安全や危機管理上の問題もあり、外へ出て巡検を行うことが難しくなっているが、1時間の授業の枠の中でも、工夫次第では巡検授業が実現可能だという一例を紹介したい。

1 具体的な授業計画

今回の対象となった生徒は、2年生の文系1クラス、理系2クラスである。この単元で6時間を割り当て、5校時目が巡検授業となる。具体的な指導内容は以下の通りである（箇条書きにしてまとめた）。

(1) 地形図読図の基本(1時間)

①UTM図法、国土地理院、実測図と編集図(1/25000・1/50000 地形図, 1/200000 地勢図), 大縮尺と小縮尺, 一般図と主題図(土地利用図, 航空図など), 地図記号…これらは地形図を教える上での基本的な事柄である。どの事柄も実際に地形図を使いながら進めていく。時間があれば、読図の訓練も行う。

②等高線(計曲線, 主曲線, 補助曲線), 尾根と谷, 断面図の作成, 色鉛筆を使った作業…地形図の基本的な読み取りの訓練をさせる。(河川, 市街地, 高校の分布, 等高線の高度差, 地図記号, 距離の計算など)

(2) 新旧地形図の利用(2時間)

札幌市の新旧地形図(1/25000 地形図を4枚)と色鉛筆を使った作業

札幌市の新旧地形図4枚(大正5年, 昭和25年, 昭和50年, 平成4年)を比較させ、市街地の変遷を概観する。特に月寒地区の市街地がどのように変化していったか、それはなぜかを考察させる。また、この指導の時に、札幌市の地形的特徴(豊平川の扇状地に市街地が形成、月寒地区は火山灰が降り積もって出来た丘陵地帯、現在の支笏湖を形成した支笏火山の火山灰で出来た溶結凝灰岩(通称札幌軟石と呼ばれる))

が多く産出) のことも簡単に触れる。

(3) 地域調査(巡検)の準備(1時間)

巡検に向けての事前学習

各資料をもとに、この地域がかつて軍隊の街であったことを説明する。当時の軍に関わる施設が現在でもかなり残っていることに触れ、次回、実際に外へ出て歩き(巡検を行い) 確認することを予告する。

※ここでは、色々と事前調査が必要であった。豊平区役所では、地元の名所・旧跡に簡単な説明が入ったプレートを設置し、この場所がどういう所であることを紹介しており、今回の巡検でも大いに役立つこととなった。また、区役所のHPには、名所・旧跡に関する簡単な説明や分布図も出ており、コース決定の際参考になった。さらに「つきさっぷ郷土資料館」館長にお話を聞き館報をいただいたり、地元の市民団体「札幌郷土を掘る会」主催でこの地域のフィールドワークが開催されることを新聞で知り、切間際に駆け込みで参加したりと、当初は事前準備の教材研究に追われ慌ただしく忙しい日々を送った。またこの巡検を広げた形で、PTAの公開講座も毎年開催することとなり、今年で5年目を迎え好評である。

(4) 野外調査の手順と実際(1時間) → 「3. 巡検の実際」「野外巡検授業案」を参照

(5) 調査内容の分析(1時間)

前回調査したことを整理し、不正確な知識や、疑問点をあげ、今回の巡検に関するレポートを作成する。

2 巡検までの事前指導における留意点や気付いた点

前述の通り、実際の巡検までにはかなりの事前指導を行っているが、その時に留意した点、気付いた点を以下にまとめてみる。

(1) 地形図読図の基本

縮尺の概念がすぐわからない生徒もいるので、実際の地形図を使って、1/25000 地形図 4枚分の範囲が 1/50000 地形図であることを確認させる。距離が2倍だと面積は4倍になるということを実物提示させることにより、生徒は納得する。

主題図の中でもカラフルな土地利用図はインパクトがあり、これに近いことを地元札幌の地形図で作業することを予告すると、その大変さに(時間がかかるだろうことを考え) 閉口する生徒もいる。ただし、実際に作業をさせると集中して行う生徒が大半である。

等高線の読み取りでは、閉曲線の内側の高度が高いという基本概念を、尾根と谷の読み取りも含め、複雑に入り組んだ山地の地形図で訓練する。断面図を書かせることにより、等高線の概念がより明確になる。最後に、地元月寒地区を中心に最新の地形図を使って土地利用図に近いものを作成させる。学校を確認させ、自宅までの通学路を赤線でなぞることから始めるが、地元札幌の地形図ということもあって、生徒もこちらが驚くほど集中して作業を進めていく。

(2) 新旧地形図の利用

大正5年、昭和25年、昭和50年、平成4年の4枚の札幌市の1/25000地形図を比較させ、昭和以降では市街地の拡大で判読の難しい扇状地や丘陵地の様子、道路や鉄道の配置（幹線道路は古くから同じ場所に存在したこと、現在の地下鉄の路線に私鉄が存在したことなど。）などを確認する。また、4つの地形図のうち、古い地形図には存在している月寒地区の旧陸軍施設が最近の地図ではどうなっているか、同じ場所を囲わせて実際巡検出歩く場所の位置関係を把握させる。この辺の作業は、コンピュータを使ったGISでは最も得意とするところだが、学校の機材が少なく授業で使えないため、全てアナログで行っている。

3 巡検の実際（地理の授業における野外巡検についての授業案参照）

出発前に、前回、事前学習をした項目の確認の意味も込めて、今回の巡検ルートを地図で確認する。まず初めに「つきさっぷ郷土資料館」を訪れ、ここが北部軍司令官官邸であったこと、「歩兵第25連隊」が月寒高校の敷地の一部を占め、この軍隊がどういう状況でこの地域に配属され、どういう役割を果たしてきたかを簡単に説明した。

特に、この資料館に展示している月寒地区の新旧の空中写真は、建物の説明をする上で役立ち、この地域が丘陵地帯であることも玄関ホールジオラマを使って説明することが出来た。以下、授業案のルートに沿って歩き、各見学ポイントで簡単な説明を行った。しかし、1時間という制約もあり、生徒にとっては物足りなさが残った反面、数々の新しい発見に、この地域を改めて知ろうという意欲的な生徒も出てきた。

生徒のレポートには様々な感想が書いてあったが、共通していることは、自分たちが毎日通っている学校のまさにその場所に軍隊が駐屯し、関連施設がたくさんあった事実と一緒に驚いているということだ。今回の巡検をきっかけに、今後この地域がどうなるか、国際的にどういう関係が築かれていくかなど、地域に目が向けられている生徒がいることに頼もしさを感じた。単に、地理の勉強というよりも、自分たちが地域に対してどう関わるかという問題意識を持った生徒がいたことは大きな収穫であった。そういう意味でも、防指揮所（現在は取り壊され、国家公務員の高層官舎が建っている）の威容を見せることが出来なくなったことが非常に残念であった。

4 今後の取り組み

今後は2時間枠も検討したいが、現状では2学年の地理・歴史科は選択科目が全員2単位となっており、2時間続きに時間割を変更するには色々と制約があり、実現は難しそうである。受験体制を無視することの出来ない本校にとって、時数確保は最重要項目である。2時間枠をするためには、学校全体を動かさなければならない。また、平和教育という観点から見ると、軍隊そのものについて、もっとじっくり考えさせる必要性も感じた。これらは政治・経済とも関係し、またこの駐屯地から日露戦争に多くの兵士が従軍している事実は、日本史との関連もある。地理だけではなく、地歴・公民全体に関わる総合的な見方も必要になってくる。

今年で7年目を迎え、少しずつ内容もバージョンアップしてはいるが、自らの勉強不

足から、まだまだ消化不良の面もある。この取り組みを毎年継続し、戦争放棄の意味を生徒に改めてしっかりと考えてもらいたいと願っている。

5 参考資料

(1) 月寒の歴史

① 札幌における月寒地区の位置づけと発展

札幌市は、豊平川の扇状地を中心に市街地が広がっており、北は石狩川とその支流が形作った氾濫原、南は藻岩山をはじめ山々が連なっている。乾いた広い土地に計画的に都市を建設したことにより、その後の人口増加にも対応でき、北海道の政治・経済の中心都市として、全国で5番目の人口を擁する巨大都市に成長した。

都市が発展し市街地が拡大する中で、周辺町村との合併も順次行い、現在の月寒地区も旧豊平町の一部であった。大正時代の地形図を見ると、かなり早い時期からこの地域だけが、札幌中心部と同じように開発が進んでいるのがわかるが、これは、この地区に旧日本陸軍歩兵第25連隊が駐屯していたためである。現在の月寒中央商店街は、この陸軍部隊を相手とするために集まった商人が集まって出来たものである。他の地域で電気が通じていなかった頃、中心部の次に街灯が付き千歳方面への幹線道路（通称、弾丸道路・現在の国道36号線）も早くから整備された。

大正時代の地形図を見ると（残念ながら、現在の地形図では殆どが市街地になっているため地形を読み取る事が出来ない）この辺りから南側は丘陵地帯が続いているのがわかる。これは、現在の支笏湖を形成した支笏火山が噴火した際、大量の火山灰が降り積もって出来たものである。ちなみに、この火山灰が固まったものが南区で現在でも採石されている「札幌軟石（溶結凝灰岩）」である。

ここに陸軍が駐屯した理由は幾つかあるが、現在のように高層マンションやビルが林立していなかった頃は、月寒地区が丘陵地帯の突端で、市街地が見渡せ守りにはもってこいの場所があったことがよくわかる。ちなみに、昔はこの辺りを「干城台」とも呼んでいたが、この地名も中国の故事に因んでつけられたという。

② 軍都としての月寒の歴史

月寒の歴史は、日本陸軍との関係を抜きには語ることは出来ない。まさに札幌地区の「軍都」としての役割を果たしてきた。この地に軍隊が駐屯するきっかけは、1896年（明治29年）屯田兵司令部を閉鎖し、日清戦争後に新たに編成された第7師団が札幌に置かれたことである。その兵営が月寒に置かれ、1899年には歩兵25～28連隊と衛戍病院（陸軍病院）が配備された。その後、師団本部は旭川に移転（1900年）したが、歩兵25連隊のみが札幌に残された。日露戦争では、この連隊にもさっそく動員命令が下され、激戦地203高地では主力部隊として大量の犠牲者を出した。

その後も、満州事変時には満州に派遣。また1936年（昭和11年）、北海道での陸軍特別大演習（大本営は北大農学部に置かれた）では、昭和天皇を迎えた終了後の講評が25連隊の営庭（現月寒高校グラウンド）で行われた。さらに日中戦争時には、ノモンハン事件に25連隊も参戦した。その後戦況の激変に伴い、この連隊は樺太混成旅団に入り（1940年）、事実上この地には歩兵が殆どいない状況になる。なお、この連隊は終

戦直前のソ連進攻時、樺太の真岡（ホルムスク）付近で最後の迎撃をしている。

25 連隊の事実上の移転と入れ代わりに、1940 年（昭和 15 年）現在の月寒中学校の地に北部軍司令部が開設され、さらに 1942 年（昭和 17 年）米軍の空爆を想定し、司令部裏にコンクリート製の防空指揮所が建設された。この建物は、空爆に耐えられるようコンクリートの厚さが 2m、屋根には草木を植えてカモフラージュし、壁は黒く塗られ、高射機関銃が設置されていた。この指揮所は東北・北海道・千島・樺太をカバーする日本北部の防衛面での司令塔となり、各部隊に通信（または電話）で連絡する為、300 名の女子挺身隊がオペレーターとして 24 時間体制・3 交替制で勤務していた。ちなみにこの建物には NHK の放送室もあり、あの名司会者として名高い高橋圭三アナウンサーも、若かりし頃、詰めていたとのことである。

戦後、旧軍事施設は、多くの人を収容できる建物が多かったこともあり、海外からの引揚者収容施設に転用され、月寒高校の校舎が出来るまで使われ続けた。

(2) 月寒周辺の軍事施設と巡検の様子

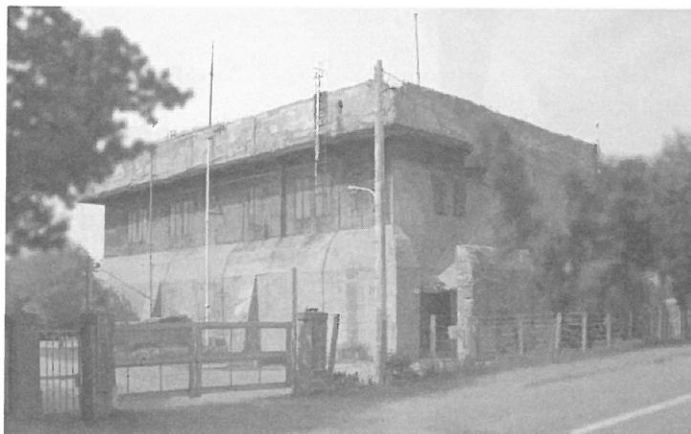
つきさっぷ郷土資料館



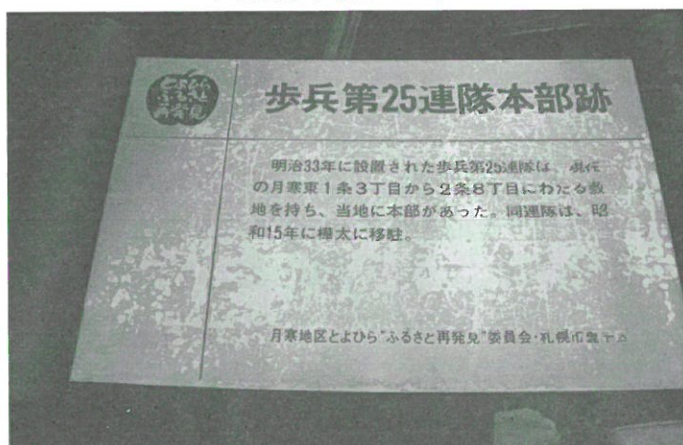
巡検の様子(つきさっぷ郷土資料館内ジオラマ前)



防空指揮所



25連隊本部プレート



25連隊本部跡(現・川村青果店)



(←) 営門の松

営門の松プレート(↓)



単元「身近な地域の調査」に関わる、地理の授業における野外巡検についての授業案

教科・科目	2年地理A 2単位	指導者	鈴木 良伸
日時	平24年6月28日・29日	使用教科書	新地理A 初訂版(帝国書院)
指導クラス (選択)	2年1・3組 2年2・6組 2年4・7組	副教材・ 各資料等	1/10000地形図「月寒」 1/25000地形 図「札幌東部」時の歴史(年表)
大単元	第1部 私たちの地球を見つめる 選択4章 身近な地域の国際化の進展		
単元の指導計画 (配当時間)	1. 地形図読図の基本……………1時間 2. 新旧地形図の利用……………2時間 3. 地域調査の準備……………1時間 4. 野外調査の手順と実際…1時間 5. 調査内容の分析……………1時間		
本時の単元	野外調査の手順と実際……………1時間(5/6)		
本時の目標	1. 地元、月寒高校周辺地域の変遷を、様々な文献を読み、野外を歩き、実際に自分の目で確かめることにより、この地域の特徴を理解させる。 2. 1/25000地形図の読図に慣れ、読み取る技能・判断力を身につけさせる。		
	指導内容	指導上の留意点	
導入 5分	自転車置場集合。通学路として歩いている月寒高校周辺が旧陸軍の駐屯地であったことを確認し(今までの授業内容の確認)地図上で今回の巡検ルートを確認する。	地元月寒地区の生徒がいたら、今までに学習したことや気づいた点について発言を促す。	
展開 40分	学校発 ↓ ①「つきさっふ郷土資料館」(旧北部軍司令部司令官官邸)着 1階第1展示室で「旧日本陸軍歩兵第25連隊」周辺の様子を地図で説明。その後2階第2展示室(軍隊関係)を中心に見学する。その後の行程(見学ルート)は以下の通り。 ②旧北部軍司令部跡(現月寒中学校) ↓ ③旧日本陸軍歩兵第25連隊教護室(現豊平区子育て支援センター) ↓ ④旧日本陸軍歩兵第25連隊本部跡(現川村青果店) ↓ ⑤「當門の松」(兵営正門にあった2株のうちの1つ) ↓ 学校着 ※地区記号の確認→公共職業安定所(官公庁) 税務署、寺院、中学校、高等学校	事前学習で配布した資料のうち、1/25000地形図、史跡マップを確認しながら歩くようアドバイスする。 北部軍の事実上の作戦本部であったことを伝える。 周辺に植えてある木(松)が当時のまま残存することを確認する。 当時の建物の土台がそのまま残されていることを確認させる。 当時の場所にそのまま残る貴重な木であることを認識させる。 ※途中、幾つかの公共施設を通過するが地図上の地区記号との確認を行う。時間が足りない場合、見学ルートを幾つか省く。	
整理 5分	学校着。職員玄関前にて、今日歩いたルートを確認し、次回にレポート(感想を含む)を書いてもらうことを予告しておく。	記憶が新しいうちに、メモしたことなどを整理するよう促す。	
言 面	・地元、月寒高校周辺の地域を歩き、実際に自分の目で確かめることにより、街並みの変遷を理解することが出来たか。 ・1/25000地形図の読図に慣れ、新旧の地図を比較し読み取る力を身につけることができたか。		

環

2004年(平成16年)8月14日(土曜日)

防衛庁は13日までに、旧陸軍北部軍司令部防空指揮所の建物を当時のまま利用している陸上自衛隊札幌駐屯地の通信施設「月寒送信所」(札幌市豊平区月寒東2)の機能を、来年度中に陸自真駒内駐屯地(札幌市南区)に移転する方針を固めた。

この後、建物は2006年度にも解体される。旧防空指揮所は戦時中、北海道と東北の部隊を指揮し、「北の大本営」の異名を持つ戦争遺跡。終戦から59年、道内から戦争の惨禍を語り継ぐ「無言の語り部」が一つ姿を消す。(報道本部 堀井友二)

札幌空襲に備えた旧防空指揮所

「北の大本営」解体へ



第二次世界大戦時の戦況を分析しながら作戦を指示し、防空指揮所内には通信部隊が詰め、各部隊からの情報をやりとりする有線、無線の当時の最新鋭機器も並んでいた。

隊から逐一伝えられる戦況を分析し、敵機襲来がある状況を示し、防空指揮所内には通信部隊が詰め、各部隊からの情報をやりとりする有線、無線の当時の最新鋭機器も並んでいた。防衛庁が月寒送信所を

老朽化で防衛庁方針 文化的価値 評価受けずに

この方針が定まっていなかった。防衛庁は戦時中、北海道と東北の部隊を指揮し、「北の大本営」の異名を持つ戦争遺跡。終戦から59年、道内から戦争の惨禍を語り継ぐ「無言の語り部」が一つ姿を消す。

第二次世界大戦時の戦況を分析しながら作戦を指示し、防空指揮所内には通信部隊が詰め、各部隊からの情報をやりとりする有線、無線の当時の最新鋭機器も並んでいた。

隊から逐一伝えられる戦況を分析し、敵機襲来がある状況を示し、防空指揮所内には通信部隊が詰め、各部隊からの情報をやりとりする有線、無線の当時の最新鋭機器も並んでいた。

隊から逐一伝えられる戦況を分析し、敵機襲来がある状況を示し、防空指揮所内には通信部隊が詰め、各部隊からの情報をやりとりする有線、無線の当時の最新鋭機器も並んでいた。

隊から逐一伝えられる戦況を分析し、敵機襲来がある状況を示し、防空指揮所内には通信部隊が詰め、各部隊からの情報をやりとりする有線、無線の当時の最新鋭機器も並んでいた。

隊から逐一伝えられる戦況を分析し、敵機襲来がある状況を示し、防空指揮所内には通信部隊が詰め、各部隊からの情報をやりとりする有線、無線の当時の最新鋭機器も並んでいた。

今回の巡検ルート



今回の巡検ルート

・旧陸軍施設（斜線で示した部分）

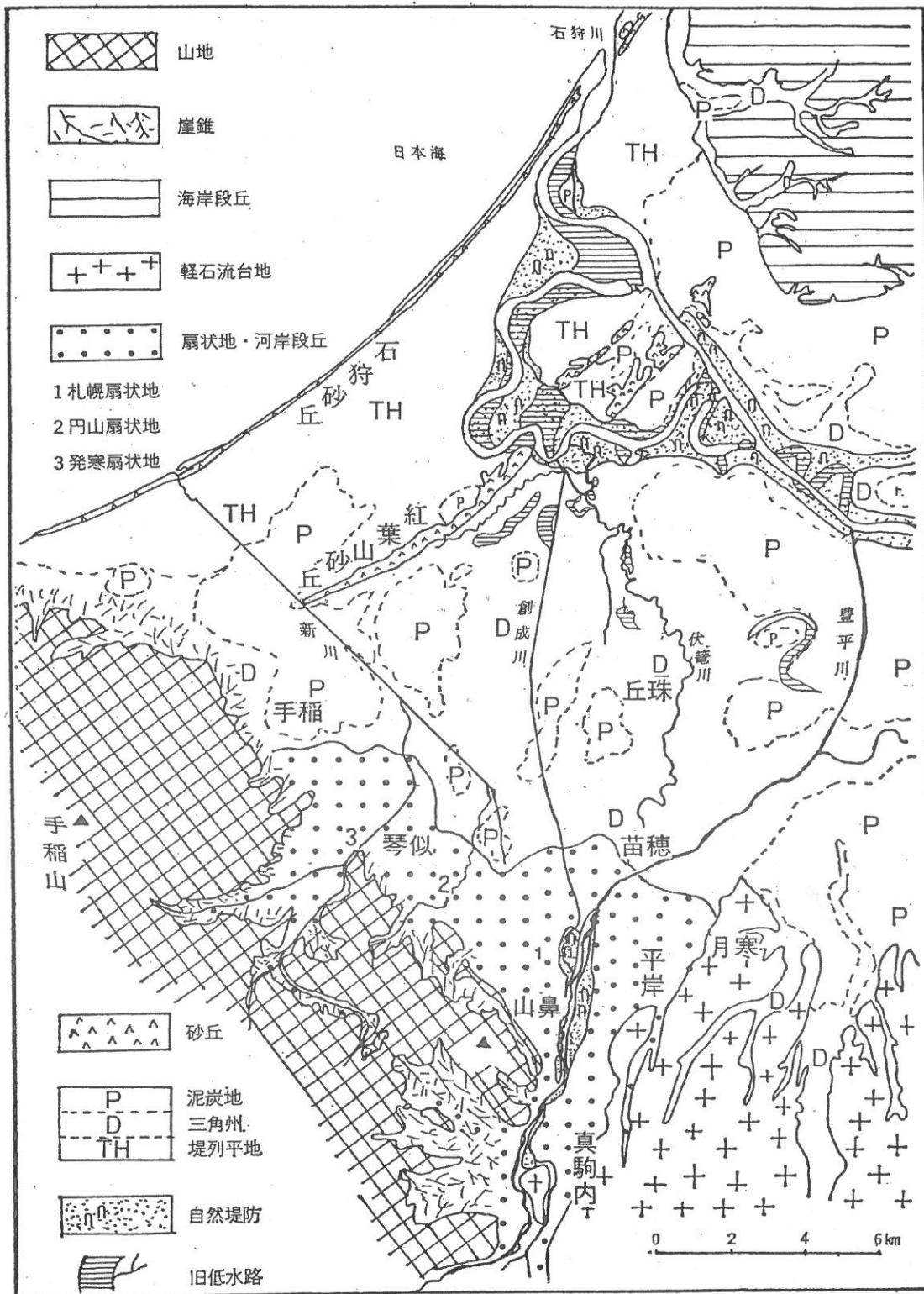
- | | |
|--------------------|----------|
| ①防空指揮所 | ④歩兵第25連隊 |
| ②北部軍司令部 | ⑤射撃場 |
| ③北部軍司令官官邸 | ⑥練兵場 |
| ⑦歩兵第25連隊偕行社（桜枝集会所） | |
| ⑧衛戍病院（陸軍病院） | |

※旧陸軍施設以外は地図に直接書き込んでいます。

1万分の1 月寒（平成16年現在）

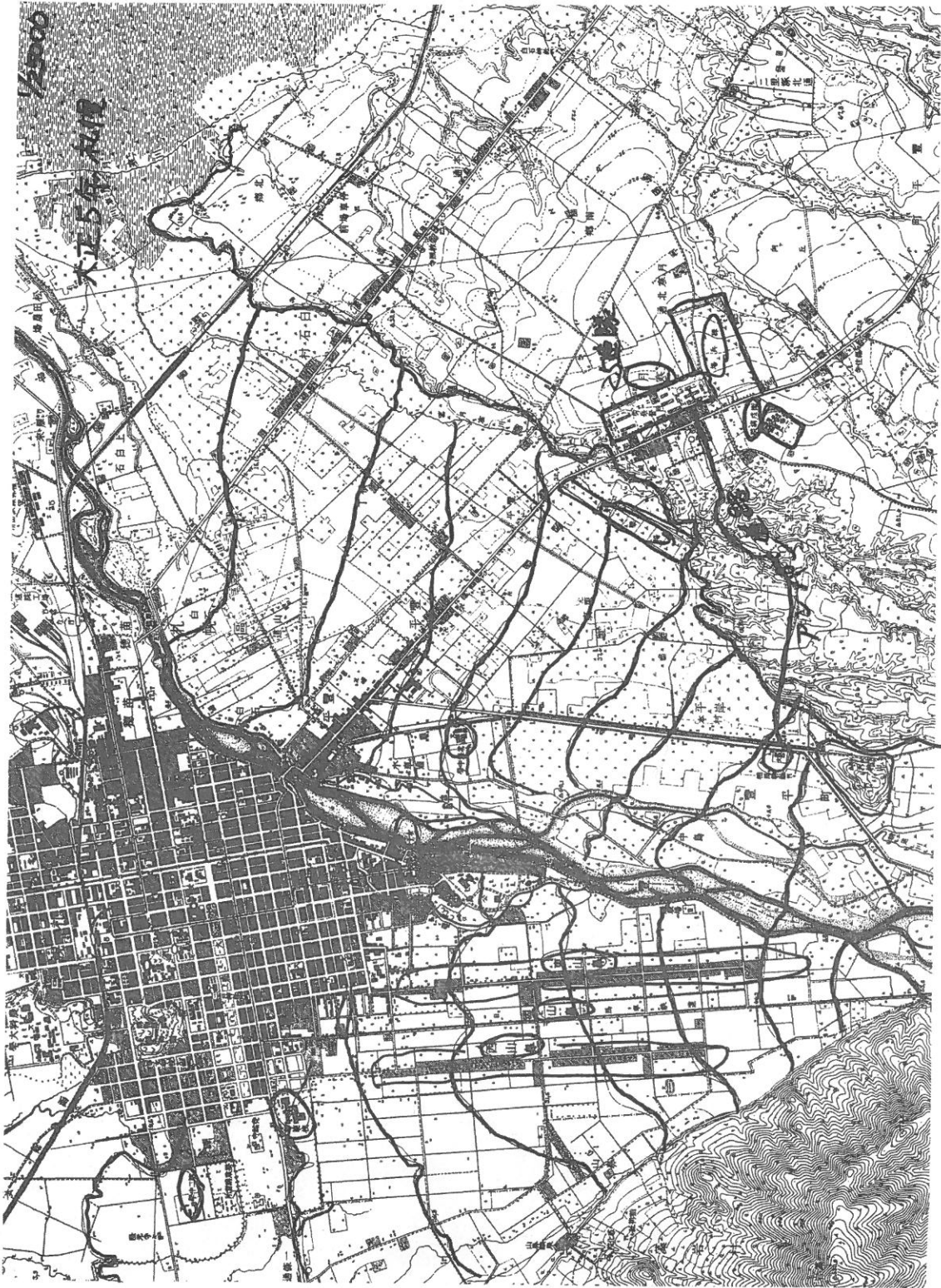
札幌周辺地質図

めぐまれた自然 3



札幌と周辺地域の地形 (石狩沖積低地地質図より作成)

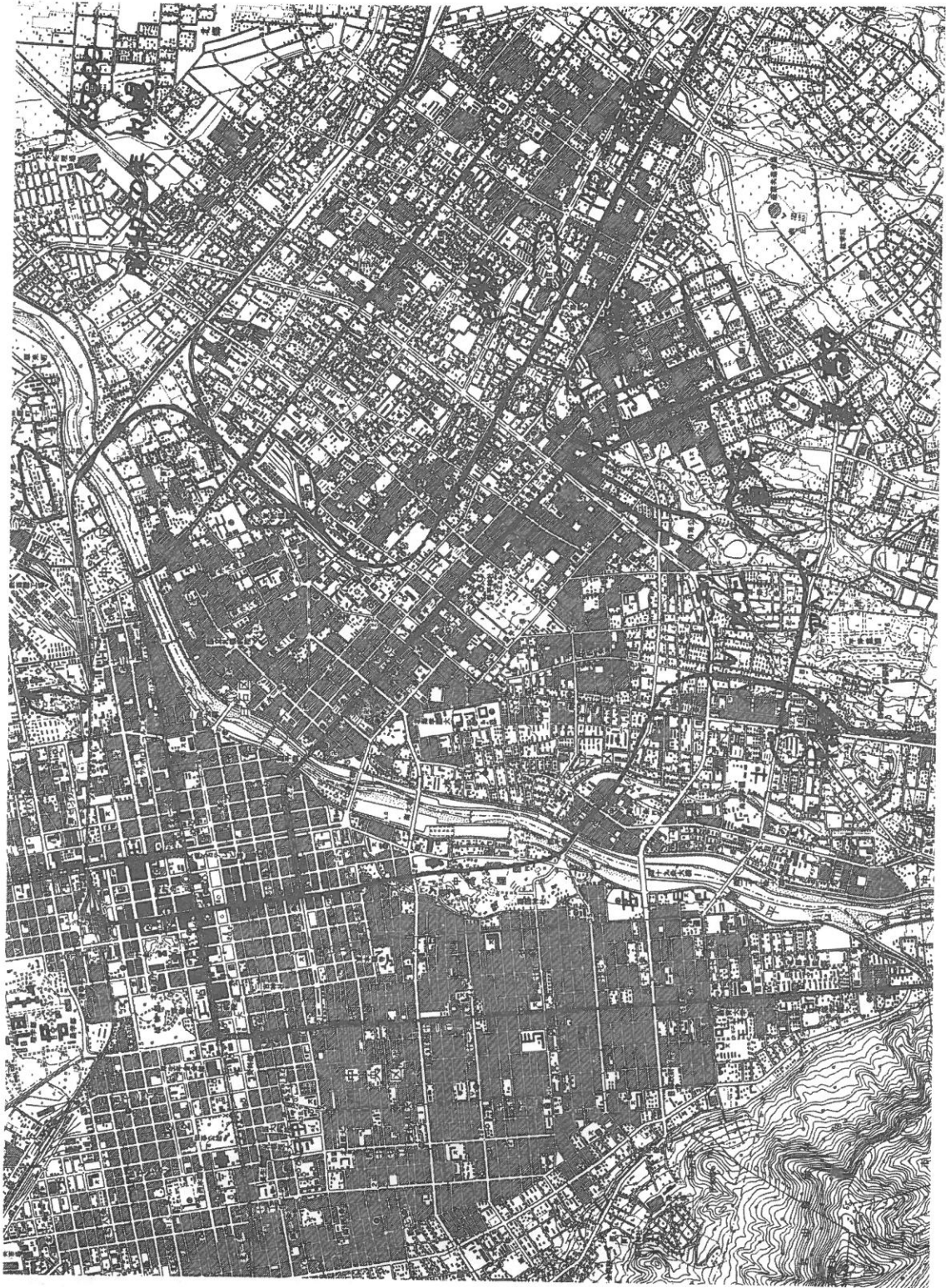
大正 5 年



昭和 25 年



昭和 50 年



平成 4 年

